

主題：
聖書の中の極めて重要な命の啓示

メッセージ 12

勝利者になるかぎ——キリストのからだのための命の霊の法則

聖書：ローマ 6:6. 7:15—8:13. 12:1-2

I. 勝利者になるかぎは、ローマ第 8 章にある命の霊の法則です。この章は、真剣に追い求める者のための章です——7:24—8:2, 28-29. 詩 105:4 :

- A. ローマ第 7 章は、「肉の中」にいる経験です。ローマ第 8 章は、「霊の中」にいる経験です（この霊は、神の霊がわたしたちの人の霊の中に住み、二つ霊がミングリングされて一つ霊となった霊です）——4, 9-10, 16 節. I コリント 6:17. II テモテ 4:22。
- B. ローマ第 8 章の命の霊の法則を享受することは、わたしたちをローマ第 12 章のキリストのからだの実際の中にもたらしめます。わたしたちがからだの中で、からだのために生きる時、この法則は内側で活動します——8:2, 28-29. 12:1-2, 11. ペリピ 1:19。

II. 内住のキリストを命の霊の法則として経験するためには、ローマ第 7 章と第 8 章の三つの命と四つの法則を見る必要があります :

- A. 創造された人の命と善の法則は、わたしたちの魂の中にあります。この法則は天然の人の命から、すなわち、人自身から出ています——7:21-23. 創 1:31. 伝 7:29。
- B. 悪のサタン的な命と罪と死の法則は、わたしたちの肉の中にあります。この法則はサタンから、すなわち、信者の肉の中に住んでいる罪から出ています——ローマ 6:6. 7:15-20, 23-24. I ヨハネ 3:10. ヨハネ 8:44. マタイ 13:38. 23:33. 3:7. ローマ 3:13。
- C. 非受造の神聖な命と命の霊の法則は、わたしたちの人の霊の中にあります。この法則は神から、すなわち、人の霊の中に住んでいるその霊から出ています——8:2, 9-10, 16. ヨハネ 1:4. 10:10 後半. 14:6 前半. I コリント 15:45 後半。
- D. この三者と三つの法則が、今や信者の中にあります。それは、この三者（神、人、サタン）がエデンの園にいたのとほとんど同じです（創第 3 章）。
- E. 信者の中のこの三つの法則に加えて、神の律法（法則）が信者の外にあります——ローマ 7:22, 25。

III. ローマ第 8 章の主題は、命の霊の法則です :

- A. すべての命には法則があり、命は法則でさえあります。神の命は最高の命であり、この命の法則は最高の法則です——参照、ヨハネ 1:4-5. 12:24. 14:6 前半. 10:10 後半. I コリント 15:45 後半。
- B. 三一の神は肉体と成ること、十字架、復活、昇天の手順を経過して、命の霊の法則となり、「科学的」な法則、自動的な原理として、わたしたちの霊の中に設置されました。これは、神のエコノミーの中の最大の発見の一つ、最大の回復の一つでさえあります——ローマ 8:2-3, 10-11, 34, 16。
- C. 命の霊（複合の霊）の法則は、わたしたちを罪と死の法則から解放し、わたしたちのために罪と死の問題を解決します——2 節前半. ペリピ 1:19。
- D. 命の霊の法則は、神聖な命の自発的な力です。それは神聖な命の自然な特性であり、本来備わっている、自動的な機能です——ローマ 8:2. ペリピ 2:13. エゼキエル 36:26-27. 箴 30:18-19。

イザヤ 40:28-31. ヘブル 12:2 前半. ピリピ 4:13. コロサイ 1:28-29.

E. わたしたちの霊の中に設置された、命を与える霊である手順を経た三一の神は、電気にたとえることができます。内側の神聖な「電気」の法則としての神の活動は、この法則に「スイッチを入れる」ために、わたしたちの協力を必要とします——ピリピ 2:12-13。

F. わたしたちが主と接触し続け、彼との接触の中にとどまっている時、命の霊の法則は自動的に、自然に、たやすく働き、命である神をわたしたちの存在の中へと分与して、罪と死の法則に打ち勝たせます——ローマ 8:10, 6, 11 :

1. わたしたちは自分の奮闘や努力をやめる必要があります——ガラテヤ 2:20 前半. ローマ 7:15-20 :

a. もしわたしたちが、罪が法則であること、わたしたちの意志が決してこの法則に打ち勝つことができないことを見たことがないなら、ローマ第 7 章のわなに落ち込んでおり、決してローマ第 8 章に到達しません。

b. パウロは何度も志を立てましたが、その結果は失敗の繰り返しでした。人ができることはせいぜい、決心することです——7:18。

c. 罪がわたしたちの中で潜伏している時、罪にすぎませんが、わたしたちが善をしようと欲することによって目覚める時、それは「悪」になります——「そこでわたしは、善を行なおうと欲しているわたしに、悪が共にあるという法則を見いだします」——21 節。

d. わたしたちは志を立てるのではなく、思いを霊に付け、霊にしたがって歩き、イエスをひたすら見つめているべきです——8:6, 4. ピリピ 2:13. ヘブル 12:1-2。

2. わたしたちは霊の中で生きるために、時間をかけて主を見つめ、祈ってイエスと交わり、彼の御顔の中に浸り、彼の美しさで浸透され、彼の卓越性を輝かし出す必要があります——詩 27:8. 105:4. 詩歌 568 番。

3. わたしたちは祈りによって、また依存する霊によって、内住する、設置された、自動的な、内側で活動する神と協力し、こうして命の主、また働きの主との交わりを維持する必要があります——I テサロニケ 5:17. エペソ 6:17-18。

4. わたしたちは霊の中の命の感覚を顧みて、命の交わり、すなわち神聖な命の流れの中にとどまり、命の霊の法則に活動していただく必要があります——ローマ 8:6, 16. I ヨハネ 1:2-3, 6-7, マラキ 2:15-16 :

a. 命の感覚は、消極的な面で、死の感覚です。死の感覚は弱さ、むなしさ、不安、落ち着きのなさ、憂うつ、渇き、暗やみ、痛みなどです——ローマ 8:6 前半。

b. 命の感覚は、積極的な面で、命と平安の感覚です。命の感覚は強さ、満足、平安、安息、解放、活発さ、潤い、明るさ、慰めなどです——6 節後半。

c. 命の感覚は、神の命とイエスにあるあの実際にしたがった良心の感覚と関係があります——エペソ 4:18-21。

IV. わたしたちの霊の中の命の霊の法則によって生きるためには、肉が何であるかを見なければなりません——参照、ローマ 8:6, 13 :

A. 肉は、腐敗し、汚れ、変質した体です :

1. 人の体は、本来は純粹でしたが、人の墮落によって、サタンは自分自身を人の中に注入し、人の体は肉になりました——創 3:6. ローマ 7:18 前半。

2. わたしたちの体は「罪の体」(6:6)、また「この死の体」(7:24)です。罪の体は神に対して罪を犯すことで、とても活発で力に満ちています。この死の体は神を喜ばせることで、弱

く無能です（18節）。

3. わたしたちがまだ生きている限り、わたしたちの贖いの日まで、罪と死の体は常にわたしたちと共にあります——参照、8:23。
 4. 「肉」という言葉はまた、わたしたちの墮落した全存在を指しています。人は完全に肉です。なぜなら、墮落した人は今日、墮落した肉の管轄の下にあるからです——3:20. 創 6:3 前半。
 5. 肉は罪、死、サタン「集会所」です。肉は絶望的な状態であり、決して改善されることはできません——ローマ 7:17-18, 21. 参照、ヨハネ 17:15 :
 - a. 肉は神に敵対し、神の律法に服従しません。
 - b. 肉は決して神を喜ばせることができません——ローマ 8:7-8。
- B. 罪はわたしたちの肉の中のサタンそのものです :
1. 罪はわたしたちを欺き、殺し（7:11）、わたしたちを支配し、すなわち、わたしたちの上に主権を持ち（6:12, 14）、わたしたちの意志に反して事を行なわせることができます（7:17, 20）。このすべての活動は、罪が生きたパーソンであることを見せています。
 2. 罪は、邪悪な者であるサタンの邪悪な性質です。サタンはアダムの墮落を通して、自分自身を人の中に注入し、今や罪の性質となって、墮落した人の中に住み、行動し、働いています——参照、マタイ 16:22-23。
 3. ガラテヤ第2章20節でパウロは言います、「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」。ローマ第7章17節で彼は言います、「もはやわたしではなく、わたしの中に住んでいる罪です」。これは、罪がわたしたちの内側でもう一人のパーソンであることを見せています。
 4. わたしたちの肉の中には善なるものが住んでいません。なぜなら、肉は罪としてのサタンによって、完全に所有され、占有されているからです——18節前半。
- V. 神はご自身のエコノミーのために、彼の知恵と主権ある案配の中で、わたしたちの罪深い、醜い肉を用いて、わたしたちを強いて霊に向けさせ、わたしたちが命の霊の法則によって生き、その霊をさらに得るようにします——8:2 :
- A. わたしたちは霊の中にいるか、それとも肉の中にいるかです。わたしたちには第三の場所はありません——4:13節。
- B. 法理的に言えば、サタンもわたしたちの肉も、一度で永遠に十字架上で罪定めされました（3節. ヨハネ 3:14. ヘブル 2:14. II コリント 5:21）。しかし神は肉をとどまらせて、わたしたちを助け、強いて霊の中のキリストに向かわせ、もはや肉に信頼しないようにさせます（ピリピ 3:3） :
1. 罪深く、醜い肉によって与えられる助けがなければ、わたしたちは真剣になって主を得ようとせず、主を内側に造り込んでいただこうとしないでしょう。
 2. わたしたちの目標は聖、霊的であること、勝利であるかもしれませんが、神の目標はご自身をわたしたちの中に造り込むことです。しばしば、わたしたちは困難な状況にある時、さらに主に開き、さらに進んで主に向こうとし、さらに進んで主にご自身を内側に造り込んでいただこうとします——ローマ 8:28-29。
 3. わたしたちの困難、欠点、失敗、失望は、わたしたちを強いて、肉には望みがないことを認識させます。肉が役立つのは、ただわたしたちを霊の中のキリストに向かわせることであって、真剣に霊の中に入らせ、目を覚まして霊の中にとどまるようにさせます——マタイ 26:41. エペソ 6:17-18。

4. 主はわたしたちが勝利を得ているかどうかには注意するではありません。主はただ一つの事、すなわち、わたしたちがその霊としてのキリストを得ることに注意します——ピリピ 3:8. II コリント 3:18。
- VI. 今日わたしたちは一つの事、すなわち、霊にしたがって歩き、その霊としてのキリストを得て、勝ち取ることに注意を払う必要があります——ローマ 8:4, ピリピ 3:8, ローマ 10:12-13, エペソ 6:17-18 :
- A. わたしたちの肉は複合のものであり、罪、死、サタンと複合されています。わたしたちの霊も複合のものであり、キリスト、その霊、恵みと複合されています——II テモテ 4:22, ローマ 8:16, ガラテヤ 6:18。
- B. 霊にしたがって歩く人だけが、地方召会を建造するための正常な肢体になることができます。もしそのような歩みがないなら、わたしたちは遅かれ早かれ自分がある地方召会の問題となるでしょう——ガラテヤ 5:16-26。
- VII. わたしたちが神聖な命の自動的な法則である内住の霊を享受することは、キリストのからだの中にあり、キリストのからだのためです。この享受には目標があり、それはわたしたちを神格においてではなく命、性質、表現において、神と同じにすること、あらゆる種類の機能を伴うキリストのからだの肢体に構成することです——ローマ 8:2, 28-29, 12:1-2, ピリピ 1:19, エペソ 4:11-12, 16。